GAMBA（ガンバ）！

尾駮スポーツ少年団通信紙
第２３号
平成21年　3月25日発行
発行元：尾駮スポーツ少年団
さわやか育成団

スケート教室に参加して

２月２２日（日）、六ヶ所村社会教育課主催である「親子スケート教室」に尾駮スポーツ少年団として、２９名の団員・育成団員が参加しました。

スケートリンクの中央では、ジュニアアイスホッケーの試合があり、毎年恒例の実技指導こそはなかったものの、そこは子どもたち…はじめこそコロンコロンと転んでいましたが、あっという間にスイスイと滑っていました。さすがです。

私も負けじと滑りましたが…終わってみるとイスに座っていた方が長かったような気がします。来年こそはちゃんと滑ろうと心に誓いましたが…どうでしょう!?

来年もまた皆さんと元気に「スケート教室」に参加できたらと思っています。　（記事：谷地）

「卒団式」と「お疲れ様会」

今年度中学校３年生を卒業された能登大貴君と下田佳澄さんの「卒団式」と「お疲れ様会」を３月１３日（金）に「六ヶ所村中央公民館」で行いました。参加団員と育成団で４１名の参加でした。

卒団式では、卒団員から「スポーツを頑張ってください。」という言葉と「大会等がとても楽しいかったです。」と団員と育成団に話して頂きました。

来年度は、今年度より充実したスポーツ少年団の活動を実施できるように、子ども達がより楽しく自ら活動できる場をめざし、微力ながら頑張っていけたらと思います。

卒団式の後は、恒例の「お疲れ様会」を行いました。今回は、料理屋さんでの開催を止め、『やまじゅ』のオードブルを囲んで行いました。オードブルはどれもおいしく、子供たちは大人コーナーの蟹をめぐり静かなバトルを繰り広げていました。さらに、育成団の役員のお母様方が、忙しい時間を割いて準備をしてくださったので、みんなで大BINGO 大会を行うことができました。とっても楽しいひと時でした。　（記事：石川　雅）

卓球教室で東大生と交流

３月１４日（土）、六ヶ所村体育協会主催の「第９回 東大生との卓球交歓交流会」が大石総合体育館で行われ、小学生団員１２名が参加しました。

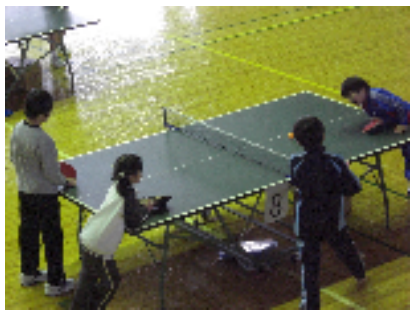
団員にとっては久しぶりの卓球ということもあり、はじめはなかなかサーブも入らずラリーも続かない状態でしたが、東大生に教えてもらいながら練習するうちに上達していき、ラリーも続くようになりました。お菓子を卓球台の上に立てて玉を打ち込み倒れたらもらえるゲームでは、より多くのお菓子を倒そうと白熱し、とても楽しんでいるように見えました。閉会式では我が団員の代表として角美宥さんがお礼の言葉を述べ、会は終了しました。

今回、なかなか接することが少ない東大生との卓球教室は、団員にとって貴重な体験になったことと思います。

（記事：坂本）

卓球教室に参加した団員の感想

山田　果歩　たっきゅうきょうしつで、さいごにやったおかしをたおすゲームはとても楽しかったです。
鈴木めぐみ　お兄さんたちにおしえてもらい、よくわかったし楽しかったです。
山田　雅晴　たっきゅうを教えてもらって前よりも打ち方が上手になったので良かったです。



一年間、ありがとうございました！

おかげさまで今年度の活動も無事に終わろうとしています。
今までを振り返って、お世話になった指導者の方々から一言をいただきました。
これからも楽しく、自分なりのステップアップを目指してがんばりましょう！

剣道　　川村 和隆

「心は見えます」

平成１９年２０年「ひばりさわやかスポーツクラブ」の剣道指導者として委嘱をいただき、小中学生・育成団の皆さんと出会えたことに感謝申し上げます。

能登一之団長さんを先頭にすべての人たちが参加出来るスポーツの環境づくりを立ち上げ、運営に積極的に取り組み、確かな手応えを感じている団員に感動いたしました。

初年度は尾駮小学校体育館での指導、礼法として、剣道は、勝負の場においても「礼節を尊ぶ」ことを分かってもらえた。心は姿・形として見えます。剣道は、世代を超えて学び合う道です。少年剣士・育成団員の相互の学び合いは、教えることは、見せることの実践でした。２年目は総合体育館での指導、他団体と一緒の練習である。見られていることの恐ろしさを感じるよい機会であった。自己表現・自己確立・やれば出来る自分さがしでもあった。一人一人が真剣に、正しく美しい剣道をめざしてくれました。日本文化としての剣道を今後も実践していくことを指導の目標としたい。

バスケットボール　　濱名 伸行

「努力と根性」

最後まで諦める事なく、頑張って下さい。

ソフトバレーボール　　金浜 幸枝

指導して感じたことは、子供たちの成長ですね。
１年生で泣き虫の子、落ち着きのなく話を聞いてくれない子供たちも回数を重ねていくと私の話でも一生懸命聞いてくれるし、ボールがあたって腕が赤くなっても上手になりたい気持ちがあるので途中やめたりしませんでした。
私はバレーボールをしていますがこの歳では、今の状態を維持することが精一杯です。
しかし、子供たちは、目に見えて上達していました。
来年度からは指導が出来なくなりますが、また、いつか仲間になれることと思っています。

子供たちへ

素直な心と素敵な笑顔をありがとう
これからも、たくさんのスポーツを経験してください。

育成団の方々に

いろいろとお世話になりました。
子供たちに一生懸命になっている姿にいつも感動していました。

金浜コーチ、また一緒にバレーボールをやりましょう！

バドミントン（アスリート）　能登　博子

まだまだ指導力不足ですが、みんなの笑顔で救われています。
来年度もみんな一緒にガンバロー！

バドミントン（エンジョイ）　荒川　玲子

楽しんで参加してもらえるよう、練習方法をいろいろ工夫して取り組んできました。
一年前に比べ上達が感じられうれしく思います。ありがとうございました。

陸上競技　川畑　一

今年度を振り返って見てみると、団員一人ひとり個々の目標を掲げ、各種大会に向けトレーニングに取り組みましたね。更に、強化合宿においては、普段の生活では体験できないつらくもあり楽しい練習ができたのではないでしょうか。その成果として各種大会では、個々に掲げた目標を達成できたのではないでしょうか。

「継続は力なり」と、何事も続けることが大切です。練習を積み重ねることが大事であり、結果は後からついてきます。団員の今後益々のご活躍をご期待申し上げます。

最後に私事ではありますが、「平成２０年度 六ヶ所村スポーツ指導者賞」を頂くことが出来ました。この賞は、私一人で頂いたものではなく、団員全員のご支援があったからこそ頂けたものです。この場を借り感謝申し上げます。本当に有難うございました。

陸上競技　石川　澄香

何もかも初めての事で緊張と少しのプレッシャーを感じながらのスタートでした。
子供達の成長と自分自身の成長、その両方を味わいつつ、楽しく過ぎた一年間。
たくさんの方々に協力してもらい、ありがとうございました。

陸上競技　大鹿　慎司

今年度振り返り、いろいろな活動ができたと思います。子ども、大人が自分の力に合わせて運動をし、仲間づくりができた良い活動と思います。

これからは地域が発展すると同時に自分が目標とする活動で頑張ってほしいと思います。

【こどもの目、おとなの目】

（少年スポーツ体のつくり方！より）

「～するな」と「～しよう」の違い

スポーツを楽しく続けていくためには〝積極的な気持ちでいられるかどうか〟が、とても重要なポイントになります。特に精神が発達途上にある子供たちは周りにいる大人の態度や言葉ひとつで気持ちが大きく変化し、それがそのまま動作に反映されるため大人の責任は重大です。

少年野球のチームでこんな実験をしたそうです。チームを２組に分けて、一方には「～するな」という指導、もう一方には「～しよう」という指導でノック練習をしたところ、「～しよう」組が「～するな」組よりも平均して２歩分多く前進してゴロをキャッチできたのです。

「～するな」という言葉から子供は失敗を恐れ、なるべくミスをしないように無難で消極的な動作ばかり繰り返すようになり、「～しよう」という言葉がけでは、積極的に動くようになります。

たった１つの言葉の使い方だけで子供が伸びる力をアシストすることができるのです。

（記事：木村）

＝お知らせ＝

・４月の活動計画予定表は、新学期が始まってから配布します。

・先日行われたＡＴＶ（青森テレビ）の取材は
4月12日（日） 11:00～11:30
「いいふるさと、いい話みつけた」
で放送される予定です。お楽しみに！

・**団員・育成団員募集中！**
団員および育成団員を随時募集しています。
お友達や近くにお住まいの地域の方で、活動に参加したいという方がいましたら事務局までお知らせください。